

2025 年 4 月入学

北海道大学大学院工学院

修 士 課 程

学 生 募 集 要 項
(一般入試 第2次)

北海道大学大学院工学院

2025 年 4 月入学

一般入試 募集人員

専攻	募集人員	専攻	募集人員
材料科学	若干名	建築都市空間デザイン	若干名
エネルギー環境システム	若干名	空間性能システム	若干名
量子理工学			

※エネルギー環境システム専攻，量子理工学専攻については，「応用量子科学系研究室群」の区分で試験を実施します。

【重要】志願者のみなさまへ

不測の事態が発生した場合，募集要項に記載の内容と異なる内容で試験を実施する可能性があります。入試方法の変更等は，下記本学院ホームページで公表しますので，随時確認してください。

北海道大学大学院工学院 入試情報

<https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/examinfo/>

目 次

教育目標とアドミッションポリシー	1
1. 募 集 人 員	2
2. 出 願 資 格	2
3. 出願資格予備審査	3
4. 出 願 方 法	4
5. 出願書類及び学科試験について	5
6. 外国語試験について	5
7. 試験日及び試験場	6
8. 合 格 発 表	6
9. 入学料及び授業料	6
10. e ³ プログラムについて	6
11. 長期履修制度について	7
12. 注 意 事 項	7
13. 個人情報の取扱いについて	7
14. 試験成績の開示について	7
15. そ の 他	7
16. 出願書類及び学科試験について	
・材料科学専攻	8
・応用量子科学系研究室群（エネルギー環境システム専攻，量子理工学専攻）	10
・建築都市空間デザイン専攻，空間性能システム専攻	12
長期履修の申請資格，申請手続き等について	14
指導教員及びその研究分野一覧表	15

教育目標とアドミッションポリシー

・教育目標

本学院の目標は、人類の長い歴史の中で営々と積み重ねられてきた学問の成果の継承と、それを基にした新たな科学・技術の創造を通じて、幅広い工学分野における基礎的素養と高度な専門的素養を身に付け、グローバル化や科学技術の高度化、研究領域の学際化等に柔軟に対応できる多様な知識と思考力、判断力、実務対応能力を持つ人材を育成することにあります。

・求める学生像

修士課程

- (1) 幅広い教養と科学・技術に関する広い視野からの専門知識を有し、それらを活かして問題解決を図るために必要な思考力および判断力を有する学生
- (2) 様々な考えを持つ世界中の人達との相互理解を可能とするコミュニケーション能力を有する学生
- (3) 上記の知識や能力の継続的な習得や向上に意欲を持った学生
- (4) 社会で生じている様々な問題について自ら考え解決する意欲のある学生

上記の学生には本学院入学前に修士課程での学修や研究に必要な専門分野に関わる学力や倫理観を習得していることを期待します。

・入学者選抜の基本方針

本学院では、国籍を問わず、理工系の専門分野を卒業し、工学分野の修士、博士の学位を取得しようとする人物、並びに学部卒業及び修士修了後に社会で活躍しながら博士の学位を取得しようとする有為の人物を下記の入学試験で選抜しています。

修士課程入試(一般入試・外国人留学生入試)

修士課程入学試験では、筆答試験により各専攻の専門分野における基礎科目及び専門科目の習熟度を計り、口頭試問で研究能力及び研究課題に取り組む意欲を評価します。外国語能力は出願時に提出した外部試験のスコアを参考にしたうえで総合的に評価し、入学者を選抜します。

1. 募 集 人 員

専 攻	募集人員	専 攻	募集人員
材 料 科 学	若干名	建 築 都 市 空 間 デ ザ イ ン	若干名
エ ネ ル ギ ー 環 境 シ ス テ ム	若干名	空 間 性 能 シ ス テ ム	若干名
量 子 理 工 学			

※エネルギー環境システム専攻、量子理工学専攻については、「応用量子科学系研究室群」の区分で試験を実施します。

2. 出 願 資 格

- (1) 大学を卒業した者及び 2025 年 3 月卒業見込みの者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は 2025 年 3 月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2025 年 3 月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2025 年 3 月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2025 年 3 月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（注 1）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（注 7）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は 2025 年 3 月までに授与される見込みの者
- （注 1） その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。
- （注 2） 当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び 2025 年 3 月までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号）
 ※各省庁所管の各種の教育訓練施設のうち、大学の学部に対応する教育課程を履修させているもの（防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校、海上保安大学校、職業訓練大学校長期指導員訓練課程、気象大学校大学部）を卒業した者及び 2025 年 3 月までに卒業見込みの者等
- (9) 外国において学校教育における 15 年の課程、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程若しくは我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者（以下「当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した志願者」という。）
- (10) 本学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2025 年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者（以下「個別の資格審査による志願者」という。）

3. 出願資格予備審査

《出願資格予備審査 インターネット出願登録期間》

2024 年 11 月 11 日（月）午前 10 時から 11 月 15 日（金）午後 5 時まで

《出願資格予備審査 出願書類の提出期間》

2024 年 11 月 11 日（月）午前 10 時から 11 月 15 日（金）午後 5 時まで

※郵送の場合も期間内必着とします。

「2. 出願資格」の（9）及び（10）による志願者は、願書を受理する前に出願資格に関する予備審査を行いますので、上記の期間内に「4. 出願方法」に従い、「①インターネット出願サイトへの登録」を行ってください。出願登録後、入学願書・履歴書を除いた出願書類（8～13 ページ参照）を用意し、下記「①出願資格予備審査提出書類」を添えて、「4. 出願方法」に記載の出願書類提出先に提出してください。

① 出願資格予備審査提出書類

出願資格予備審査では、入学願書・履歴書を除いた出願書類（8～13 ページ参照）に加えて、下記の書類が必要です。出願資格予備審査申請書には、志望する指導教員及び志望する専攻の専攻長の確認印が必要となりますので、時間には余裕を持って書類を準備してください。

出願資格	提出書類
（9）当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した志願者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ・最終出身学校等の卒業証明書 ・高等学校及び最終出身学校等の成績証明書
（10）個別の資格審査による志願者	○出願資格予備審査申請書（本学院 HP からダウンロードすること） ＊高等専門学校、短期大学の卒業者、専修学校・各種学校の卒業者、外国人学校の卒業者など大学卒業資格を有していない者は以下の書類が必要です。 ・最終出身学校等の卒業証明書 ・高等学校及び最終出身学校等の成績証明書 ・最終出身学校卒業後の学修・研究歴又は実務経験等について証する所属長等の証明書（様式任意） ・これまでの学修・研究内容及び大学院入学後の研究計画をまとめたもの（800 字程度、様式任意）

② 出願資格予備審査結果通知

出願資格予備審査の結果は、2024 年 12 月 2 日（月）に E メールにて通知します。出願資格を認められた者は、「4. 出願方法」に記載の「検定料の納入期間」内にインターネット出願サイトから検定料を納入してください。所定の期間内に検定料を納入しない場合は、出願を無効とします。

検定料を納付した後、同サイトから入学願書等（PDF）をダウンロードし、7 ページに記載の連絡先メールアドレス（k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp）まで当該 PDF ファイルを送付することで、出願手続きが完了となります。

なお、12 月 13 日（金）までに予備審査の結果通知が届かない場合は、受信先メールアカウントの迷惑メール等のフォルダに入っていないか確認した上で、連絡先までお問い合わせください。

4. 出願方法

本学院への出願は、①インターネット出願サイト(<http://e-apply.jp/e/hokudai-eng>)への登録、②検定料の納入、③出願書類の提出、これらすべてが指定の期間内に行われたことをもって完了します。

指定の期間内に全ての作業が完了しなかった場合、途中まで作業を行っていた場合であっても、一切の受付はできませんので注意してください。

《インターネット出願登録および検定料納入期間》

2024年12月18日（水）午前10時から12月27日（金）午後5時まで

《検定料》

30,000 円

《出願書類の提出期間》

2024年12月18日（水）から12月27日（金）まで

※郵送受付のみ。12月27日（金）消印有効（海外からの郵便は追跡番号で発送日を確認します）。

《出願書類提出先》

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目
北海道大学工学系事務部 教務課大学院担当

①インターネット出願サイトへの登録

一般入試で出願する者はインターネット出願サイト(<https://e-apply.jp/e/hokudai-eng>)から、「日本語」を選択し、出願ページに進んでください（注：「英語」からは出願登録ができません）。その後、「はじめに」を確認した上で、「募集要項・出願する」から、画面の指示に従い出願登録を行ってください。

※インターネット出願サイトへは、本学院 HP (<https://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/>) の「入試情報」からもアクセスできます。

②検定料の納入

インターネット出願サイトで必要な登録作業を行った後、同サイトにて検定料を支払ってください。

支払い方法は、コンビニエンスストア、郵便局・銀行のATM、ネットバンキング、クレジットカード、中国銀聯網決済の中から選択ができます。（支払いに際し、決済手数料500円が必要となります）

郵便局・銀行の「窓口」での支払いはできませんので注意してください。

支払い方法の詳細については、インターネット出願サイトをご覧ください。

【重要】国費外国人留学生は検定料の納付が不要となります。該当の志願者はインターネット出願サイトで出願登録を完了した後、入金手続き前に教務課大学院担当 (k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)宛にEメールにて、現在の所属、学生番号、氏名を記載の上、出願登録を完了した旨をご連絡ください。

なお、既納の検定料はいかなる理由があっても返還しませんので、ご注意願います。ただし、次の場合のみ返還に応じます。

①検定料を払い込んだが北海道大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合

②検定料を誤って二重に払い込んだ場合

（注）出願期間内に願書の提出が完了しない場合、検定料を支払っていても出願は認められませんので、検定料の支払いは余裕を持って行うようご注意ください。

③出願書類の提出

検定料の支払い完了後、インターネット出願サイトから「入学願書」・「履歴書」をダウンロード(PDF)し、それぞれをカラー印刷（両面印刷不可）した上で、出願期間内に出願書類等（8～13ページ参照）とあわせて出願書類提出先に郵送してください。※検定料の支払いが完了するまでは、入学願書等のダウンロードができませんのでご注意ください。

願書等を郵送する際は、ダウンロードしたPDFファイル4枚目に添付されている郵送用宛名ラベルを使用して、必ず書留郵便で送付してください。

5. 出願書類及び学科試験について

志望する専攻ごとに8～13ページに記載しています。

なお、すべての試験（筆答・口述・口頭試問）は日本語で実施されます。

6. 外国語試験について

①外国語試験の実施方法について

外国語試験については、試験当日の筆記試験は実施せず、出願時に提出された本学院指定の外国語外部試験（TOEIC, TOEFL, IELTS）のスコアをもって外国語試験の成績として判定します。

提出可能な試験のスコアは以下のとおりです。

提出可能な試験	提出不可な試験
TOEIC Listening & Reading Test	TOEIC IP/TOEIC Institutional Test Sessions、 TOEIC Speaking & Writing Tests、 TOEIC Speaking Test、TOEIC Bridge Test
TOEFL iBT, TOEFL iBT Special Home Edition	TOEFL ITP、TOEFL ITP Plus for China, Revised TOEFL PDT
IELTS (アカデミック・モジュール)	IELTS (ジェネラル・トレーニング・モジュール) IELTS Online

(※) IELTS のスコアについては、出願する専攻によって取扱いが異なります。

材料科学専攻については、IELTS のスコアの提出が認められませんので、ご注意願います。

提出可能な外国語外部試験のスコアは、入学試験実施日（2025 年 2 月 12 日）から過去2年以内に受験した試験に限ります。

②提出方法について

提出する外国語外部試験（TOEIC, TOEFL, IELTS）の種類により、提出方法が異なります。なお、いずれも出願書類提出期間までにスコア原本の提出がなければ、有効なスコアとして認められませんので、スコアシートの発行依頼については、十分余裕をもって行うよう注意してください。

【TOEIC Listening & Reading Test】

- ・志願者宛に送付があったスコアシート（Official Score Certificate）を“封筒未開封の状態”で“出願書類提出時”に他の出願書類と一緒に提出してください。
- ・開封済みのスコアシートは受理できません。再発行の手続きを行ってください。

【TOEFL iBT】

- ・出願書類提出期間までに、試験事務局（ETS）から公式スコアレポート（Institutional Score Report）を本学院宛に郵送してください。
送付先：北海道大学大学院工学院（団体コード C519）
- ・スコアシートの発行には時間がかかる場合があるので、時間には余裕を持って依頼するようにしてください。なお、出願書類提出期間より前に本学院に到着しても、出願書類として受理します。
- ・TOEFL スコアの送付を依頼した場合は、本学院（k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp）宛に、「大学院入試出願のため TOEFL スコアシートの送付依頼をした」旨を記載し、氏名、出願希望専攻、TOEFL 試験受験日、ETS への送付依頼日を連絡してください。スコアシートが本学院に到着した際には、スコアシートを受理した旨を志願者に連絡します。
- ・本学院では「MyBest スコア」を使用しません。出願登録の際は、「Test Date スコア」に記載の点数を登録してください。

【IELTS (アカデミック・モジュール)】

- ・出願書類提出期間までに、試験事務局に追加成績証明書の発行を依頼し、試験事務局から本学院宛に郵送してください。
- ・スコアシートの発行には時間がかかる場合があるので、時間には余裕を持って依頼するようにしてください。

さい。なお、出願書類提出期間より前に本学院に到着しても、出願書類として受理します。

- ・本学院では電子送信システムを利用しないため、原本の郵送を選択してください。
- ・IELTS スコアの送付を依頼した場合は、本学院 (k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp) 宛に、「大学院入試 出願のため IELTS スコアシートの送付依頼をした」旨を記載し、氏名、出願希望専攻、IELTS 試験受験日、試験事務局への送付依頼日を連絡してください。スコアシートが本学院に到着した際には、スコアシートを受理した旨を志願者宛に連絡します。

(注意事項)

- ・各試験ともに、2024 年 12 月 8 日 (日) までに受験済のスコアの発行を依頼した場合であって、出願書類の提出期間までに郵送が届かなかった場合に限り、出願書類の提出期間後の提出であっても有効なスコアとして扱う場合があります。
- ・複数種類のスコアを取得していても、提出できるスコアシートは 1 つのみです。
- ・提出のあったスコアシートは返却しません。

③英語により大学(院)教育を受けた外国人留学生志願者について

英語を母国語とする国の出身者であって、上記指定の外国語外部試験を受験する機会がほとんどない外国人留学生については、英語により大学(院)教育を受けてきた場合に限り、スコアシートの提出を免除することがあります。免除を希望する志願者は、出願前に教務課大学院担当までご相談ください。なお、免除には、英語により大学(院)教育を受けてきたことを示す書類(大学等が公式に発行したものに限る)を出願書類に添付することが必要になりますので、あらかじめ準備してください。当該書類が添付されていない場合、免除は認められません。

7. 試験日及び試験場

①試験日

2025 年 2 月 12 日 (水) ～13 日 (木)

日程の詳細については、8～13 ページで確認願います。

②試験場

北海道大学工学院 (試験室等詳細な情報は受験票と併せて通知します。)

8. 合格発表

合格者の受験番号は 2025 年 3 月 4 日 (火) 午前 10 時に本学院 HP において掲示発表の予定です。

別に受験者全員 (当日の試験を欠席したものを除く) に対し合否を通知します。

なお、合格者には、併せて入学手続きに関する書類を同封します。入学手続き期間など重要なことが記載されておりますので、3 月 9 日 (日) までに届かない場合は 7 ページに記載の教務課大学院担当までご連絡ください。

9. 入学科及び授業料 (予定額)

(1) 入 学 料 282,000 円

(2) 2025 年度前期分授業料 267,900 円 (年額 535,800 円)

- ①入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金が適用されます。
- ②入学手続き期間内に入学料を納めなければ、入学の意志がないものとして取り扱います。
- ③授業料を当該学期中に納付しなかった場合は、除籍になります。経済的理由により納付が困難な場合は、免除 (猶予) 申請もあります。

10. e³プログラムについて

本学院では、英語を使用言語として修士及び博士の学位取得が可能な e³プログラム (English Engineering Education Program, 略称 e³) を設置しています。

本プログラムでは、課程修了に必要な授業が英語で開講され、論文発表、研究指導なども全て英語で行われます。プログラムへ参加を希望する場合、大学院入学試験に合格したうえで、以下の e³プログラムのホームページに示す英語力の資格を満たすことが必要です。 (<http://www.eng.hokudai.ac.jp/e3/>)

参加の申し込みに当たっては、指導予定教員とよく相談をするようにしてください。

日本人学生が、e³プログラムに参加した場合は、希望者に対して選考のうえ奨学金を給付します。

11. 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している等の事情で、単位取得や研究指導を受ける時間に制限のある学生が、標準修業年限（修士課程2年）を超えて計画的に学修することを希望した場合、学生からの申請に基づき学院において審査を行い、その長期的な履修を認めることができる制度です。申請資格、申請手続き等は21ページのとおりで。なお、長期履修の申請に当たっては、事前に、指導予定教員とよく相談をしてください。

12. 注 意 事 項

- (1) 入学試験当日は、受験票を必ず持参して机の上に置いてください。
- (2) 出願書類等に不備がある場合は受理できませんので、誤記や記入漏れのないように注意してください。
- (3) 出願に係る全ての書類は出願書類提出期間内に提出してください。提出期間終了後は、不足した書類に係る相談は受け付けられません。
- (4) 出願後はいかなる事情があっても志望の変更を認めません。
- (5) 一度受理した出願書類等は、いかなる事情があっても返還しません。
- (6) 出願書類等に虚偽の記載が発見された場合は、入学許可を取り消すことがあります。

13. 個人情報の取扱いについて

- (1) 本学が保有する個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人北海道大学個人情報管理規程」に基づき、保護に万全を期しています。
- (2) 出願に当たってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選考実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤及びこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (3) 各種業務での利用に当たっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託に当たり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、お知らせいただいた個人情報の全部又は一部が提供されます。
- (4) 出願に当たってお知らせいただいた個人情報は、合格者のみ入学後の①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、③授業料等に関する業務を行うために利用します。（共同資源工学専攻の出願者に係る個人情報は、九州大学においても①、②の業務を行うために利用します。）
- (5) (4) の個人情報のうち、氏名、住所に限って、北大フロンティア基金及び本学関連団体である、①北海道大学体育会、②北海道大学工学部北工会からの連絡を行うために利用する場合があります。

14. 試験成績の開示について

本学院では、選考の結果不合格となった受験者本人からの請求に基づき、本入学試験に係る成績の開示を行います。開示の請求期間は、2025年4月1日（火）から4月11日（金）です。請求方法については、本学院ホームページを確認してください。

15. その他

- (1) 入学願書を受理した者には、2025年2月上旬に受験票を送付します。
- (2) 入学志願者で身体に障害のある者は、あらかじめ受験上や修学上の対応が必要となる場合がありますので、2024年12月27日（金）までに教務課大学院担当に申し出てください。
- (3) 過去の試験問題の一部を、本学院ホームページで公表しています。
(<http://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/>)

2024年11月

北海道大学大学院工学院

《連絡先》

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目
北海道大学工学系事務部
教務課 大学院担当
電話 (011) 706-6121
k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp

16. 出願書類及び学科試験について

材料科学専攻

① 出願書類

	提出書類	備考
	出願書類チェック表	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・下記出願書類と一緒に提出すること。
1	入学願書・履歴書	・インターネット出願完了後に出力可能となる PDF ファイルを、A4 判の用紙にカラー印刷すること。 ・出願後に転居等で連絡先を変更する場合は、教務課大学院担当に申し出ること。
2	入学願書用写真	・インターネット出願サイトにアップロードすること。なお、一旦アップロードすると、その後は向きの変更ができないため、アップロードする際の写真の向きには十分注意すること。 ・上半身脱帽、正面向。3ヶ月以内に撮影したもの。 ・写真サイズは1MB 以上、3MB 以下とすること。
3	受験票送付用封筒	・長形3号(長3)封筒(120mm×235mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「受験票送付用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・受験票送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・封筒には 410 円分の切手を貼付すること。
4	可否通知用封筒	・角形2号(角2)封筒(240mm×332mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「可否通知用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・可否通知送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・切手の貼付は不要。
5	出身大学(学部)の成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者は提出不要。 ・出願資格(7)による志願者は、高等学校及び最終出身学校等の学業成績証明書。 ・高等専門学校専攻科修了者は、本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网(CHSI:China Higher Education Student Information)が発行する英語による成績証明書を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 - CHSI アドレス: https://www.chsi.com.cn/ ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けないので十分注意すること。
6	卒業(見込)証明書 又は学位記のコピー(留学生のみ)	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者及び出願資格(9)による志願者は、提出不要。 ・出願資格(2)による志願者は、大学改革支援・学位授与機構が発行する学位授与(申請受理)証明書もしくは所属高等専門学校が発行する学位授与申請予定証明書も提出。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ・留学生については、発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・出願時に大学等を卒業している者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「中国高等教育学位在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ・出願時に大学等に在学中の者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「教育部学籍在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Student Record)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けないので十分注意すること。

7	【外国人留学生のみ提出】 最終出身学校の指導教員の推薦書	・様式任意(ただし, 指導教員の手書きのサインが書かれたもの)。コピーは不可。 ・本学工学部出身者は提出不要。現在工学研究院に在籍している研究生については, 研究生出願時に提出した推薦書のコピーによる提出も可。
8	【外国人留学生のみ提出】 在留カードのコピー	・本邦外に居住する外国人で本邦に上陸の日から 60 日を超えない外国人については代わりにパスポートのコピー。
9	志望理由書	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。
10	研究室希望調査票	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・専攻内全 11 研究室に対して, 配属希望順位を必ず記入。
11	本学院が指定する外国語外部試験のスコアシート	・詳細は, 「6. 外国語試験について」を参照すること。 ・英語により大学(院)教育を受けた外国人留学生のうち, スコアシートの提出の免除を希望する者は, 「英語により大学(院)教育を受けてきたことを示す書類(大学等が公式に発行したものに限る)」を提出すること。
12	研究計画書	様式任意(A4判1ページ, 1000 字程度, 図表可)。合格した場合にこの研究計画の実施を保証するものではありません。

② 選考方法

学科試験(口述・口頭)及び出願書類等の審査結果を総合して可否を決定します。

③ 学科試験の期日及び時間

下記のいずれかの時間帯で口述試験および口頭試問を行います。試験の日時および試験室等の詳細については, 受験票の送付時に連絡します。

試験期日	時間	試験科目	
2025 年 2 月 12 日(水)	9:00～ 12:00	口述試験・ 口頭試問	口述試験では, 材料科学および工学に関する基礎学力と研究計画についての試問を実施します。
	13:00～ 16:00	口述試験・ 口頭試問	口述試験では, 材料科学および工学に関する基礎学力と研究計画についての試問を実施します。
2 月 13 日(木)	9:00～ 12:00	口述試験・ 口頭試問	口述試験では, 材料科学および工学に関する基礎学力と研究計画についての試問を実施します。

応用量子科学系研究室群（エネルギー環境システム専攻，量子理工学専攻）

【重要】専攻単位での募集は行いません。

① 出願書類

	提出書類	備考
	出願書類チェック表	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・下記出願書類と一緒に提出すること。
1	入学願書・履歴書	・インターネット出願完了後に出力可能となる PDF ファイルを，A4 判の用紙にカラー印刷すること。 ・出願後に転居等で連絡先を変更する場合は，教務課大学院担当に申し出ること。
2	入学願書用写真	・インターネット出願サイトにアップロードすること。なお，一旦アップロードすると，その後は向きの変更ができないため，アップロードする際の写真の向きには十分注意すること。 ・上半身脱帽，正面向。3ヶ月以内に撮影したもの。 ・写真サイズは1MB 以上，3MB 以下とすること。
3	受験票送付用封筒	・長形3号(長3)封筒(120mm×235mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「受験票送付用宛先ラベル」をダウンロードし，カラー印刷すること。 ・受験票送付先の住所(研究室不可)，氏名，受験専攻を記入の上，封筒に貼付すること。 ・封筒には 410 円分の切手を貼付すること。
4	可否通知用封筒	・角形2号(角2)封筒(240mm×332mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「可否通知用宛先ラベル」をダウンロードし，カラー印刷すること。 ・可否通知送付先の住所(研究室不可)，氏名，受験専攻を記入の上，封筒に貼付すること。 ・切手の貼付は不要。
5	出身大学(学部)の成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者は提出不要。 ・出願資格(7)による志願者は，高等学校及び最終出身学校等の学業成績証明書。 ・高等専門学校専攻科修了者は，本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は，「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网(CHSI:China Higher Education Student Information)が発行する英語による成績証明書を，CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 CHSI アドレス:https://www.chsi.com.cn/ ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので，時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては，出願書類として受け付けられないので十分注意すること。
6	卒業(見込)証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者及び出願資格(9)による志願者は，提出不要。 ・出願資格(2)による志願者は，大学改革支援・学位授与機構が発行する学位授与(申請受理)証明書もしくは所属高等専門学校が発行する学位授与申請予定証明書も提出。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は，「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ・留学生については，発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・出願時に大学等を卒業している者は，中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「中国高等教育学位在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate)を，CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ・出願時に大学等に在学中の者は，中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「教育部学籍在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Student Record)を，CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので，時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては，出願書類として受け付けられないので十分注意すること。

7	【外国人留学生のみ提出】 最終出身学校の指導教員の推薦書	・様式任意(ただし、指導教員の手書きのサインが書かれたもの)。コピーは不可。 ・本学工学部出身者は提出不要。現在工学研究院に在籍している研究生については、研究生出願時に提出した推薦書のコピーによる提出も可。
8	【外国人留学生のみ提出】 在留カードのコピー	・本邦外に居住する外国人で本邦に上陸の日から60日を超えない外国人については代わりにパスポートのコピー。
9	研究室希望調査票	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・各試験区分内の全ての研究室に対して、配属希望順位を必ず記入すること。
10	志望理由書	・本学所定様式(本学院 HP からダウンロード可)に記入の上、提出すること。 ・本学工学部出身者については専攻長からの特段の指示がなければ提出不要。
11	本学院が指定する外国語外部試験のスコアシート	・詳細は、「6. 外国語試験について」を参照すること。 ・英語により大学(院)教育を受けた外国人留学生のうち、スコアシートの提出の免除を希望する者は、「英語により大学(院)教育を受けてきたことを示す書類(大学等が公式に発行したものに限る)」を提出すること。

② 選考方法

学科試験（筆答・口頭）及び出願書類等の審査結果を総合して可否を決定します。

③ 試験区分と研究室群

試験区分と研究室の対応は以下のとおりです。

応用量子科学系研究室群

- ・エネルギー環境システム専攻の以下の研究室
「原子炉工学」, 「原子力システム安全工学」, 「原子力環境材料学」
- ・量子理工学専攻の全研究室
「中性子ビーム応用理工学」, 「プラズマ環境プロセス」, 「プラズマ材料工学」, 「プラズマ生体応用工学」

注) 応用量子科学系研究室群を志願する4月入学希望者は、入学時点で配属可能な研究室が限定されているので、あらかじめ第一配属希望研究室の教員に出願希望の旨を伝え、研究室での受け入れ可否を確認すること。

④ 学科試験の期日及び時間

試験区分の学科試験の期日及び時間は以下のとおりです。

応用量子科学系研究室群

試験期日	時間	試験科目	
2025 年 2 月 12 日(水)	9:00～ 12:00	筆答試験	応用数学
	13:30～ 16:30	筆答試験	電磁気学(3問), 材料科学(3問), 原子物理・原子炉工学(3問) の計9問から3問を選択
2 月 13 日(木)	9:00～ 12:00	口頭試問	

詳細については、下記のホームページを必ず参照してください。

https://mech-hm.eng.hokudai.ac.jp/~mech/contents/entrance_ex.html

建築都市空間デザイン専攻、空間性能システム専攻

① 出願書類

	提出書類	備考
	出願書類チェック表	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。 ・下記出願書類と一緒に提出すること。
1	入学願書・履歴書	・インターネット出願完了後に出力可能となる PDF ファイルを、A4 判の用紙にカラー印刷すること。 ・出願後に転居等で連絡先を変更する場合は、教務課大学院担当に申し出ること。
2	入学願書用写真	・インターネット出願サイトにアップロードすること。なお、一旦アップロードすると、その後は向きの変更ができないため、アップロードする際の写真の向きには十分注意すること。 ・上半身脱帽、正面向。3ヶ月以内に撮影したもの。 ・写真サイズは1MB 以上、3MB 以下とすること。
3	受験票送付用封筒	・長形3号(長3)封筒(120mm×235mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「受験票送付用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・受験票送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・封筒には 410 円分の切手を貼付すること。
4	可否通知用封筒	・角形2号(角2)封筒(240mm×332mm)を用意すること。 ・本学院 HP から「可否通知用宛先ラベル」をダウンロードし、カラー印刷すること。 ・可否通知送付先の住所(研究室不可)、氏名、受験専攻を記入の上、封筒に貼付すること。 ・切手の貼付は不要。
5	出身大学(学部)の成績証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者は提出不要。 ・出願資格(7)による志願者は、高等学校及び最終出身学校等の学業成績証明書。 ・高等専門学校専攻科修了者は、本科及び専攻科の成績証明書を提出すること。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・中国高等教育学生信息网(CHSI:China Higher Education Student Information)が発行する英語による成績証明書を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 CHSI アドレス:https://www.chsi.com.cn/ ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けられないので十分注意すること。
6	卒業(見込)証明書	【中国以外の教育機関出身の出願者】 ・本学工学部出身者及び出願資格(9)による志願者は、提出不要。 ・出願資格(2)による志願者は、大学改革支援・学位授与機構が発行する学位授与(申請受理)証明書もしくは所属高等専門学校が発行する学位授与申請予定証明書も提出。 ・証明書の原本が日本語又は英語以外の言語で書かれている場合は、「当該言語で書かれた証明書の原本」と「公的な和訳又は英訳の原本」の両方を添付すること。 ・留学生については、発行機関が原本証明した学位記のコピーによる提出も可とする。 【中国の教育機関出身の出願者】 ・出願時に大学等を卒業している者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「中国高等教育学位在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ・出願時に大学等に在学中の者は、中国高等教育学生信息网(CHSI)が発行する「教育部学籍在线验证报告 翻译件(英文)」(Online Verification Report of Student Record)を、CHSI から本学院(k-gakuin@eng.hokudai.ac.jp)あてに直接メールで送信する形で提出すること。 ※CHSI の証明書発行には時間がかかる場合があるので、時間に余裕を持って請求すること。出願書類提出期間後に到着したものについては、出願書類として受け付けられないので十分注意すること。

7	【外国人留学生のみ提出】 最終出身学校の指導教員の推薦書	・様式任意(ただし、指導教員の手書きのサインが書かれたもの)。コピーは不可。 ・本学工学部出身者は提出不要。現在工学研究院に在籍している研究生については、研究生出願時に提出した推薦書のコピーによる提出も可。
8	【外国人留学生のみ提出】 在留カードのコピー	・本邦外に居住する外国人で本邦に上陸の日から 60 日を超えない外国人については代わりにパスポートのコピー。
9	研究室希望調査票	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。
10	志望理由書	・本学所定様式。本学院 HP からダウンロードすること。
11	本学院が指定する外国語 外部試験のスコアシート	・詳細は、「6. 外国語試験について」を参照すること。 ・英語により大学(院)教育を受けた外国人留学生のうち、スコアシートの提出の免除を希望する者は、「英語により大学(院)教育を受けてきたことを示す書類(大学等が公式に発行したものに限る)」を提出すること。

② 選考方法

学科試験（筆答又は口頭）及び出願書類等の審査結果を総合して可否を決定します。

③ 学科試験の期日及び時間

試験期日	時間	試験科目		備考
2025 年 2 月 12 日(水)	9 : 00～ 12 : 00	筆答試験	【建築都市空間デザイン専攻】 建築都市学基礎（構造力学，建築構造，建築材料施工，建築環境，建築計画，建築・都市史，都市計画，都市防災）	
			【空間性能システム専攻】 建築都市学基礎（同上） 環境工学基礎 （応用数学，伝熱工学，工業熱力学，環境生理学，温熱環境工学）	2 科目のうちから 1 科目を選択してください。
	13 : 00～ 16 : 00	筆答試験	【建築都市空間デザイン専攻】 空間防災学，空間計画学	志望の専攻名の科目を選択してください。
			【空間性能システム専攻】 空間性能学，建築システム学	
2 月 13 日(木)	9 : 00～ 12 : 00	口頭試問		

長期履修の申請資格、申請手続き等について

1. 申請資格

長期履修を申請できる者は、次のいずれかに該当する者としします。

- (1) 官公庁、企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）又は、自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者
- (2) アルバイト、パートタイム等の職業に就いている者で、学院において、その負担により修学に重大な影響があると認めたもの
- (3) 学院において、育児、親族の介護等前2号に準ずる負担により、修学に重大な影響があると認めた者
- (4) 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由その他の障害を有している者で、学院において、その障害により長期にわたり修学に重大な影響があると認めたもの

2. 申請の手続き

長期履修を申請する者は、次の(1)～(4)の書類を入学願書に添えて提出してください。

申請書用紙の請求については、教務課大学院担当までご連絡ください。

- (1) 長期履修申請書及び理由書
- (2) 履修計画書
- (3) 長期履修が必要であることを証明する書類
- (4) 障害者手帳又は医師の診断書（上記1. 申請資格(4)に該当する者のみ提出）

3. 可否の通知

申請書類に基づき審査のうえ、可否を決定し、3月中旬に通知します。

4. 在学期間

長期履修学生として在学することを認められる期間は、1年を単位とし、修士課程にあつては3年から4年までとなります。

なお、各年度の修了月は、9月又は3月となっていますので、長期履修学生申請書に長期履修計画年数を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を許可された在学期間の年数で除した額となります。（授業料の改定時期によっては、修了までの納入予定総額が当初の予定より増額することがあります。）詳しくは、教務課大学院担当にお問い合わせください。

6. 在学期間の短縮又は延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学する課程において、1回に限り期間の短縮又は延長を申請することができます。

(1) 在学期間の短縮

長期履修期間の短縮を認めることのできる期間は、修士課程にあつては、4年から3年への短縮の場合です。長期履修期間の1年短縮を希望する場合は、長期履修期間が終了する日の2年前までに「長期履修期間変更願」を提出し、許可を得なければなりません。

(2) 在学期間の延長

長期履修学生は、在学期間の延長をすることができます。

在学期間の延長を希望する者は、当初の長期履修期間が終了する日の1年前までに「長期履修期間変更願」を提出し、許可を得なければなりません。なお、在学期間は、修士課程4年を超えることができません。

- (3) 在学期間の短縮又は延長の場合の授業料は、再計算されますが、いずれも在学期間に応じ過不足の調整がなされますが、既納の授業料は返還されません。

7. その他

長期履修の申請は、入学時のほかに、2年次進級時にも行うことができます。ただし、その場合、授業料の総額が、入学前に長期履修を申請した場合に比べ増額となりますので、ご注意願います。（最終年次での申請はできません。）不明の点については、教務課大学院担当までご連絡ください。

指導教員及びその研究分野一覧表

2024年11月1日 現在
北海道大学大学院工学院

専攻	講座	教 員		研究 分 野	備 考
応用物理学	量子物性工学	教授	矢久保 考 介	※フラクタル, 複雑ネットワーク, 臨界現象, 計算物理学	
		教授	浅 野 泰 寛	量子輸送現象, トポロジカル超伝導, 超伝導現象論	
		准教授	鈴 浦 秀 勝	物性理論, 特に, 電子系の量子輸送現象と光学応答の理論	
		助教	江 上 喜 幸	ナノ構造の電子物性, 電子輸送現象, 第一原理シミュレーション	
		教授	市 村 晃 一	超伝導/電荷密度波量子デバイス, 量子トポロジー理工学, トポロジカル結晶, トポロジカル重力理論, 量子相転移, カイラル物性, ナノ量子プローブ測定, 低次元有機導体のトポロジカル物性, 低温・高圧物性	
		助教	迫 田 将 仁	超短パルスレーザーによるナノスケール超音波発生・検出, 表面弾性波の可視化, 固体中の超高速の電子・熱拡散, 音響メタマテリアル, 力学系メタマテリアル, プラズモニクス, トポロジカルフォノンニクス	
		教授	松 田 理 友		
		助教	友 田 基 信	超流動, 量子液体, 量子固体, 低温物理学	
		教授	野 村 竜 司	結晶物理学, 回折結晶学, 準結晶の構造と物性, 複雑構造合金結晶, 非周期結晶構造解析, 金属磁性と電子輸送	
		准教授	高 倉 洋 礼		
	凝縮系物理工学	助教	柏 本 史 郎	ナノバイオテクノロジー, 単原子・ナノイメージング, グラフエン, 高分解能電子顕微鏡, 水・氷・クラスレート, 結晶成長, ナノバブル, 細胞凍結保存	
		准教授	内 田 努		
	光波動量子物理工学	教授	森 田 隆 二	非線形光学, 非線形レーザー分光, 光滴(位相特異性をもつ光)・軸対称偏光(偏光特異性をもつ光), 光マニピュレーション, チャープパルス増幅	
		准教授	山 根 啓 作		
		助教	覚 間 誠 一	光干渉計測, 波長制御レーザーによる精密長さ測定, レーザレーダ	
		教授	足 立 智 賀	固体光物性, 半導体量子ナノ構造のスピン物性, スピンダイナミクスのコヒーレント制御, 核スピン分極制御, 希土類添加結晶での量子メモリ開発	
		准教授	鍛 冶 怜 奈		
		准教授	関 川 太 郎	超高速光科学, 高光電場物理, アト秒科学, 光化学反応ダイナミクス	
		教授	長谷川 祐 司	量子力学実験, 量子光学, 中性子光学, 量子基礎論	
		准教授	小 林 淳	冷却原子, レーザー冷却, 極低温分子, 精密分子分光, 量子縮退気体, 狭線幅レーザー	
固体量子物理工学		准教授	小布施 秀 明	開放量子系, 非エルミート系, 量子ウォーク, トポロジカル相, 不規則系の物理に関する理論	
		講 師	水 野 誠 司	ナノスケール構造におけるフォノン, 電子輸送現象, 電子・フォノン相互作用, フォノンニック結晶, NEMS, ナノワイヤー超格子、音響メタマテリアル、フォノ共鳴、連続体中の束縛状態(BIC)	
材料科学	エ コ マ テ リ ア ル	教授	岩 井 一 彦	※電磁場, 超音波を利用した材料プロセス, 結晶配向, 新規鋳造プロセス	エネルギー・マテリアル融合領域研究センター
		教授	菊 地 竜 也		
	マ テ リ ア ル 設 計	教授	上 田 幹 人	溶解塩・イオン液体化学, 電解製錬工学, 金属資源リサイクル, 金属表面反応の分光学的その場測定, 腐食防食工学, 自動車用燃料電池の応用工学, 次世代Li電池開発, 核融合に向けた水素同位体分離	
		准教授	松 島 永 佳		
		教授	三 浦 誠 司	次世代材料(金属間化合物基耐熱合金, 軽量MgおよびAl合金, 強靱セラミック材料, 構造用鉄鋼材料)の機械的・物理的性質(材料物性・材料強度・相安定性)の実験的探求と, 第一原理計算やコンピューターシミュレーションも用いた理論構築	
		准教授	池 田 賢 一		
教授	大 野 宗 一	材料組織学, 計算材料科学, 凝固工学, データ科学, 構造用金属材料, 組織形成モデリング, 原子シミュレーション			
エ ネ ル ギ ー 材 料	教授	米 澤 徹	半導体産業向け材料の開発・ナノ材料の合成・物性評価・応用開発, エコナノ材料の設計と構築, 導電ペーストの開発, 金属微酸化粉, 電子顕微鏡開発, エネルギー輸送ナノ材料開発, 2次電池材料開発, 金属材料の環境劣化, 酸化物皮膜の微細構造解析学, レーザー照射-AFMによる微細加工, 新規電界コンデンサ・セラミックスコンデンサの開発, 有機-無機複合材料, 光化学と人工光合成, 新規金属空気電池の実用化		
	准教授	坂 入 正 敏			
	助教	Nguyen Thanh Mai	高エネルギー粒子照射による材料の損傷, エネルギー炉用材料の照射下安定性評価, 核融合炉材料の開発, 水素吸蔵材料の開発, 水素化特性の微視的解析, 水素利用安全技術開発, 新規ハイレントロピー合金の開発		
	教授	橋 本 直 幸			
	准教授	磯 部 繁 人	高温かつ過酷環境下における耐熱合金・コーティングの開発, 発電ボイラー, ガスタービン, 化学プラント等に用いられるNi, Fe, Co基の高温材料やコーティングの高温腐食, 機械的特性向上に関する基礎的・応用的研究		
	准教授	岡 弘			
エネルギー変換マテリアル	教授	林 重 成	高分解能電子顕微鏡, 電子エネルギー損失分光, 第一原理計算, 物質の原子・電子構造, 機能材料設計, 二次元材料, 水素関連材料		
	准教授	上 田 光 敏			
	准教授	米 田 鈴 枝	光反応科学とナノ材料, 光エネルギー及び熱エネルギー変換材料の開発と評価, 太陽電池, 熱電素子, 光触媒材料		
	教授	渡 辺 精 一			
	准教授	沖 中 憲 之	CVI製鉄, 水素製造・貯蔵・輸送, 電池材料合成, 燃焼による材料合成, 蓄熱技術, エクセルギー解析, エコ・コンビナート設計		
	准教授	張 麗 華			
マ テ リ ア ル 製 造 (連 携 講 座)	教授	能 村 貴 宏	鉄鋼製造プロセスに関する研究		
	客員教授	野 内 泰 平			
フロンティアエネルギー工学 (連 携 講 座)	客員教授	堀 本 雅 之	軽水炉用事故耐性燃料(ATF)及び原子炉構造材料の開発研究		
	客員教授	山 下 真 一 郎	高速炉の炉心材料開発, 中性子照射や熱時効が強度特性に及ぼす影響		
	客員准教授	矢 野 康 英	圧力容器用高強度鋼・高張力鋼の開発研究		
	客員教授	茅 野 林 造	圧力容器用高強度低合金鋼の開発及び鋼の水素脆化に関する研究		
	客員准教授	高 澤 孝 一			
	客員教授	高 澤 孝 一			
					(JFEスチール(株))
					(日本製鉄株式会社)
					((国研)日本原子力研究開発機構)
					((国研)日本原子力研究開発機構)
					((株)日本製鋼所)
					((株)日本製鋼所)

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。
注2) ※を付した教員は2025年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教 員		研究 分 野	備 考			
機 械 宇 宙 工 学	宇 宙 シ ス テ ム 工 学	教 授 助 教	永 田 晴 紀 脇 田 督 司	宇宙工学、ロケットシステム、宇宙機器設計、ミッション解析	((国研)宇宙航空研究開発機構)			
		教 授 准教授 助 教	藤 田 修 橋 本 望 金 野 佑 亮			※微小重力場における燃焼現象、宇宙環境利用技術、代替燃料燃焼、燃焼不安定性、バイオマス由来燃料の燃焼、火災物理学、反応性熱流体数値シミュレーション、燃料液滴の蒸発現象		
		教 授 准教授	大 島 伸 行 寺 島 洋 史	※数値シミュレーション、乱流、反応流、気液混相・超臨界流、航空機空気力学、自動車空気力学、ガスタービン・ロケット燃焼器、流体構造連成問題				
		准教授	高 橋 裕 介	宇宙工学、高速流体・高温気体力学、大気再突入問題、流体構造連成問題、数値解析				
	機 械 フ ロ ン テ ィ ア 工 学	教 授 准教授 准教授	渡 部 正 夫 小 林 一 道 藤 井 宏 之	蒸発・凝縮機構に関する分子動力学及び分子気体力学を用いた解析、気泡力学、固体表面への液滴衝突、界面における輸送現象、生体や農産物における光・輻射の輸送現象				
		特任教授 准教授	中 村 孝 高 橋 航 圭			※複合材料のマイクロメカニクス、接着・粘着現象の界面強度、高分子材料の粘弾性・疲労、力学的駆動力による微細組織制御、有限要素法による応力解析、材料試験システムの開発		
		宇 宙 探 査 工 学 (連 携 講 座)	教 授 教 授 准教授	佐 藤 太 裕 藤 村 奈 央 加 藤 博 之		材料力学、構造力学、弾性力学、構造安定論、構造形態学、ナノメカニクス、プラントメカニクス、振動を利用した表面改質、金属材料の疲労		
			客員教授 客員准教授 客員准教授	菊 池 政 雄 松 山 新 吾 丸 祐 介			宇宙環境利用工学、宇宙実験技術、微小重力利用燃焼研究、プロジェクトマネジメント、システムズエンジニアリング 数値シミュレーション、燃焼流、乱流、熱化学非平衡流、極超音速流、乱流燃焼、ロケット・ガスタービン燃焼器、大気圏突入 宇宙飛行体システム、宇宙推進システム	
	人 間 機 械 シ ス テ ム デ ザ イ ン		バ イ オ ・ ロ ボ テ ィ ク ス	教 授 助 教		東 藤 正 浩 山 田 悟 史	バイオメカニカルデザイン、生体骨のバイオメカニクス、整形外科バイオメカニクス、バイオマテリアル、生体機械システム工学、X線材料強度学	国立研究開発法人理化学研究所
				教 授 准教授		清 水 裕 樹 江 丸 貴 紀		
		教 授 准教授 助 教		梶 原 逸 朗 原 田 宏 幸 米 沢 平 成		知的構造システム、スマート構造、レーザー応用振動試験、制御技術の産業応用、ロボティクス、移動ロボット機構、バイオメカニクス		
		教 授 准教授 特任准教授		戸 谷 剛 黒 田 明 慈 山 田 雅 彦			※超小型衛星の熱設計・熱制御機器、宇宙用ラジエータ、放射の波長制御、熱と流れの数値シミュレーション、乱流構造と熱輸送機構、混相流、非ニュートン流体の熱・輸送物性、水スラリーの流動・相変化現象、超小型衛星の構造設計・環境試験・運用技術	
マ イ ク ロ シ ス テ ム		教 授 准教授 特任准教授	大 橋 俊 朗	生体工学、バイオメカニクス、バイオエンジニアリング、バイオMEMS、バイオチップ、細胞・組織バイオメカニクス、医用生体工学、計算バイオメカニクス、整形外科バイオメカニクス、植物バイオメカニクス、微小重力空間バイオメカニクス				
		特任教授 准教授 助 教	佐々木 克 彦 本 田 真 也 武 田 量	変形制御学、非線形構成理論、パラメータ最適化構造解析、医療用デバイスの最適設計、血管に関わる構造一流体連成解析、複合材料構造および機械構造の最適設計、複合材の新規製造法の開発、スマート構造の振動制御、機械学習の応用、膝関節韧带組織の力学測定、膝関節運動解析				
		バ イ オ メ デ ィ カ ル シ ミ ュ レ ー シ ョ ン (連 携 講 座)	客員教授 客員准教授	横 田 秀 夫 金 内 智 子	バイオモデリング、生体の力学特性計測、バイオイメージング、医用画像工学、バイオシミュレーション 画像処理、画像認識、画像処理システム、バイオイメージ・インフォマティクス			
			エ ネ ル ギ ー 生 産 ・ 環 境 シ ス テ ム	教 授 准教授 特任教授 准教授	千 葉 豪 藤 田 達 也 澤 和 弘 河 口 宗 道	原子炉炉心設計、原子炉物理、放射線輸送計算 新型炉安全設計、核分裂生成物移行挙動、核燃料工学、セラミックス材料 高速炉安全性、シビアアクシデント、ソースターム、原子力材料特性		
教 授 教 授		小 崎 完 渡 邊 直 子		放射性廃棄物処理処分の安全評価、原子炉材料科学、核燃料工学、原子炉廃止措置、環境放射能				
特任教授		中 島 宏		放射線遮蔽、放射線物理学、放射線防護、放射線および原子力施設の安全管理、核物質防護、軽水炉再稼働支援、廃炉及び福島復興支援				
教 授 准教授		田 部 豊 植 村 豪		熱エネルギー変換及び利用工学、反応を伴う熱物質移動の解析制御、環境低負荷型エネルギーシステム、燃料電池、大容量二次電池、リチウム空気電池				
教 授 教 授 助 教		村 井 祐 一 田 坂 裕 司 朴 炫 珍		流体力学:流れの不安定性、乱流遷移、複雑流体のレオロジー 流体計測:超音波と光による流れ場の時空間測定、超音波センシング、レオメトリ 流体工学:船舶の抵抗低減、混相流の制御、風洞実験、複雑流動の予測				
准教授	柴 田 元	エンジンシステム工学、エンジンの燃焼、エンジンシステムの高機能化、エンジン排気後処理						

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。

注2) ※を付した教員は2025年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間在職する場合があります。

専攻	講座	教 員		研 究 分 野	備 考
量子理工学	応用量子ビーム工学	教授 助教 准教授	大 沼 正 人 平賀 富士夫 金 子 純 一	中性子・X線による物質・材料研究 放射線計測学, 耐放射線性半導体デバイス開発, 魔炉工学	
		教授 准教授	松 浦 妙 子 宮 本 直 樹	粒子線治療工学, 放射線医学物理学, 医用画像工学	
		教授 准教授	加美山 隆 佐 藤 博 隆	中性子イメージング, 加速器中性子源, 中性子デバイス, 中性子実験装置, X線融合, 量子ビームによる材料研究, 宇宙線中性子ソフトウェア	
	プラズマ理工学	教授 准教授 助教	富 岡 智 山 内 有 二 松 本 裕	プラズマ・ビーム電磁界解析, 逆問題解析, 非破壊診断, プラズマ生体相互作用, 核融合工学, プラズマ表面相互作用, 真空工学	
		教授 准教授	佐々木 浩一 白 井 直 機	プラズマ計測, プラズマ応用工学, プラズマナノ科学, プラズマ環境工学, レーザーアブレーション	
		助教	信 太 祐 二	核融合炉材料, 水素吸蔵, 表面改質, 照射損傷	
		准教授	富 田 健太郎	プラズマ計測, プラズマエレクトロニクス, プラズマX線源, レーザー生成プラズマ	
		教授 助教	柴 山 環 樹 中 川 祐 貴	量子ビームによるナノ材料の創成と物性の評価, 複合量子ビーム超高圧電子顕微鏡, 非平衡材料科学, 量子ビーム利用材料, ナノ材料創製, 原子炉材料, 核融合炉材料, 透過電子顕微鏡による微細構造解析, メカノケミストリー, 水素貯蔵材料	エネルギー・マテリアル融合領域研究センター(量子エネルギー変換材料)
	物質構造科学 (連携講座)	客員教授 客員教授 客員教授	瀬 戸 秀 紀 熊 井 玲 児 森 一 広	パルス中性子及び放射光によって物質の構造とダイナミクスを調べることにより, 物質の機能発現や生命現象の本質に迫る	(大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構)
	核融合科学 (連携講座)	客員教授 客員准教授 客員准教授	Peterson Byron Jay 田 中 照 也 本 島 巖	核融合プラズマ物理, プラズマ計測工学, 核融合炉工学	(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構)
環境フィールド工学	水圏環境工学	准教授 助教	岩 崎 理 樹 田 中 岳	河川工学, 水工学, 土砂水理学 水文学(流出解析・洪水予測), 防災工学・教育(教育実践・教材開発)	
		教授 教授 教授 教授	泉 典 洋 山 田 朋 人 渡 部 靖 憲 猿渡 亜由未	河川工学, 河川環境工学, 水工水理学, 水文気象学, 大気陸面相互作用, 地球水循環システム 海岸工学, 流体力学 海岸工学, 海洋気象学	
	防災地盤工学	教授 教授 助教	渡 部 要 一 西 村 聡 福 田 文 彦	人工・自然地盤物性学, 地盤安定・変形の評価・対策, 都市防災地盤工学, 海岸・沿岸域等のフロンティア地盤開発	西村:公共政策学連携研究部 (博士後期課程のみ担当)
		教授 准教授 助教	石 川 達 也 磯 部 公 一 横 濱 勝 司	寒冷地地盤防災工学, 交通地盤工学, 土・水マルチフィジックス解析 地盤耐震工学, 地盤と構造物基礎の相互作用, 地盤防災工学 建設廃材のリユース, 地盤補強工法, 地盤温度の活用による発電	
		教授 准教授	杉 山 隆 文 橋 本 勝 文	構造材料工学, 環境コンクリート工学, 高性能コンクリート構造学	
北方圏環境政策工学	寒冷地建設工学	教授 教授 准教授	宮 森 保 紀 松 本 高 志 古 川 陽	構造工学, 地震工学, 構造動力学, 構造モニタリング 橋梁工学, 鋼構造, 複合材料・構造, 構造設計・維持管理 応用力学, 計算力学, 弾性波動論, 非破壊評価	公共政策学連携研究部
		教授 准教授 助教	長 井 宏 平 松 本 浩 嗣 古 内 仁	構造工学, 微細構造解析, 成熟社会インフラマネジメント, 国際協力 維持管理工学, コンクリート構造学, 構造解析 維持管理工学, 複合構造工学, コンクリート構造学	
	技術環境政策学	教授 准教授 助教	内 田 賢 悦 杉 浦 聡 志 峪 龍 一	交通ネットワーク解析学(自動運転, 公共交通, 交通データ解析), 都市経済学, インフラマネジメント計画, 防災計画, 政策評価, 不確実性下の意思決定論	
		教授 教授 教授 准教授	高 野 伸 栄 岸 邦 宏 吉 井 稔 雄 高 橋 翔	インフラストラクチャプランニング, コンストラクションマネジメント, モビリティマネジメント 交通計画, 交通工学, 都市計画, リスク・マネジメント, 合意形成 交通工学, 交通マネジメント, 事故リスク解析, 交通計画 画像・映像解析, 道路・交通モニタリング, 交通工学, 情報工学応用, AI・ICT・IoT	

注1) 助教は博士後期課程の指導教員になることができません。

注2) ※を付した教員は2025年春退職予定。ただし、そのうち特任教員以外の教員は、引き続き1年または2年間に在職する場合があります。

